

第12回メディカルスタッフのための感染対策セミナー

# 歩けるESBL産生菌保菌者の 病院・施設での管理

2017年5月30日(火)

独立行政法人 地域医療機能推進機構

九州病院

森本 麗華

# はじめに

ESBL産生菌の検出率は近年増加傾向にある。ESBL産生菌が検出された患者には、標準予防策に加えて接触予防策を実施している。その中でも、歩けるESBL産生菌保菌者への対応について、今回検討した。

# 本日の内容

1. 当院でのESBL産生菌の拡散リスク
2. 歩けるESBL産生菌保菌者の管理

# ESBL産生菌とは

- ESBL(基質拡張型 $\beta$ ラクタマーゼ)は、酵素の名前で、これを産生する菌をESBL産生菌と呼んでいる。
- ヒト・動物の腸管内に定着している。健常人における保菌率も高い。

# ESBL産生菌の特徴

- ESBL産生遺伝子は、異なる菌種（例えば大腸菌から肺炎桿菌）にも移動できる。
- ESBL産生遺伝子を獲得した細菌は、さまざまな抗菌薬に耐性になる。

# 拡散のリスクを評価する

- 環境周囲に拡散しやすい状態にあるのか、「拡散のリスク」を評価し、リスクに応じた対策を実施している。

# 便からESBL産生菌が検出された場合

## 下痢

あり

なし

おむつ着用  
介助を要する

ADL自立

おむつ着用  
介助を要する

ADL自立

拡散  
リスク  
**高**

**高\***

**中**

**低**

個室隔離＋接触予防策

\* ただし、ベッドの空き具合で個室にならないこともある

可能なら個室隔離  
＋接触予防策

標準予防策

# 当院の拡散のリスク表

## 排泄物から検出された場合の対応

拡散リスク	検体	検出状況	患者状況	必要な対策
高	便	<ul style="list-style-type: none"><li>・激しい下痢</li><li>・ストーマあり</li><li>・おむつ着用</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・重症患者</li><li>・日常生活上のケア量が多い</li><li>・感染対策に対する理解・協力が得られない</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・個室隔離</li><li>+接触予防策</li></ul>
中	尿	<ul style="list-style-type: none"><li>・尿道留置カテーテル挿入中</li><li>・失禁・おむつ着用</li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>・可能なら個室隔離</li><li>+接触予防策</li></ul>
低	便・尿	<ul style="list-style-type: none"><li>・固形便</li><li>・排泄行動が自立している</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ADL自立</li><li>・感染対策に対する理解・協力が得られる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・標準予防策</li><li>・トイレの清掃</li></ul>

# 当院で検出された歩ける ESBL産生菌保菌者の特徴

- ① 便・尿などの排泄物からが多い
- ② 拡散のリスクは低い



## 感染対策のポイント

- 標準予防策を遵守する
- 検出部位に応じた対策を行う
  - 排泄物: トイレ・入浴時

# ポイント① トイレ使用時

- 患者への排泄後の手洗い指導
- トイレの清掃頻度は1日2～3回

## ①消毒部位

洋式トイレの便座、便座のフタ、水洗のボタン、ドアノブ、水道の蛇口、手すりなど手で触れる部分

## ②消毒方法

次亜塩素酸ナトリウム（塩素濃度1000ppm＝0.1%以上）で清拭する

## ポイント② 入浴時

- 陰部をよく洗淨してから入浴
- 入浴の順番は最後
- 入浴後は浴槽の洗淨と十分な乾燥

# ポイント③ 高頻度接触面の清掃

- 環境クロスを使用し、手指が高頻度に触れるベッド柵、床頭台、スツール、オーバーテーブル、ナースコール、スイッチなどの清掃



# ポイント④ 他部門との情報共有

- 耐性菌についての情報提供
  - ✓ 病棟から関連部署へ事前に連絡
  - ✓ 順番調整の依頼(最後または空いた時間での実施)
  - ✓ 検査伝票への情報を記入

# ポイント⑤ 検査やりハビリの時

- 検査やりハビリ終了後は、環境クロスを使用し患者が使用した器具の清掃

# 現場ラウンド

- 対策の要点をチェックリスト化し、病棟及びICNの相互で確認する。
- 現場スタッフに対策の実施状況を確認する。不十分な点があればその場でフィードバックする。

# まとめ

- ESBL産生菌が検出された場合、拡散のリスクを評価する
- 標準予防策に加えて、検出部位に応じた対策を行う
- 対策の実施状況をチェックリストで確認し、患者の状況に応じた予防策を指導する

# 参考文献

1. 満田年宏. 結果が出せる感染対策いちから始める実践プログラムー医療機能評価,感染防止対策加算の項目もらくらくクリア！ー株式会社メディカ出版, 2013年春季増刊
2. 感染対策のための院内ラウンド協力サポートブックー準備→実施→フィードバックを完全フォロー！株式会社メディカ出版, 2014年春季増刊
3. ベテランICNのコンサルテーション術まるわかり感染対策ズバツと問題解決ベストアンサー171. 株式会社メディカ出版, 2011年秋季増刊
4. 熊本県感染管理ネットワークQ&A分類別